

サポセンニュースレター 2024年 終号



p5_【チャレンジャー】
まっどゼロウェイスト

p5_ サポセン新規届出団体

p6-7_【サポセンの事業報告】
Let's 体験!!2024

p8_【スタッフコラム】
『ワーク・イン・ライフ』オススメします



サポセン
メルマガ登録はこちら！
<https://bit.ly/3gf0dh6>



まっど市民活動
サポートセンター

<http://www.matsudo-sc.com/>

不登校親子応援ねっと

『不登校親子応援ガイドマップ』を編集、発行。ほか不登校支援団体交流会などを開催しています。



HP ホームページ

090-4846-1496
f.ohen-net@live.jp

不登校は子どもがよりよく生きるためのサイン。親子で笑顔を取り戻すお手伝いをします。独りで悩まないで！



編集委員の皆さん



不登校問題を考える
東葛の会

流山市初石駅から7分の一軒家で、不登校の『子どもの居場所ひだまり』や親の会を運営し、講演会・相談活動などを行っています。



HP ホームページ

090-2439-2905
(池田康子)

hida-2m8
@jcom.zaq.ne.jp

居場所では、安心・信頼できる大学生スタッフたちと楽しく交流し、自己肯定感がふくらみます。親も、親の会で思いを出し合い、子ども理解や関わり方など、学び合ってください。



『ひだまり』の玄関

ひとさじサロン

“まちかどアトリエ Neiro”での発達障がいや不登校のお子さんをサポートする保護者のおしゃべり会、情報交換のサロン。



Instagram
HP ホームページ

neirokirara@gmail.com

ちょっと話したい、体験談を聞いてみたいという方のためのサロンです。お気軽にお問い合わせください。



代表：日置さん



不登校経験者×保護者のおはなし会

不登校の親御さん向けに不登校経験者の体験談を聴け、親同士の情報交換ができる会を3ヶ月に1回開催。



× エックス

edfuture2022@gmail.com

不登校経験者と不登校を支える親と一緒に不登校について話ませんか？支える人にも支えが必要です。



海老原さん・駒崎さん



はらっぱとそらプロジェクト
@千葉松戸

U30 充電中のこども・わかもの居場所(はらっぱ)運営や、不登校のサポート情報資料の郵送サービスを行っています。



note ノート
Facebook フェイスブック
× エックス
Instagram インスタグラム

pjt.harappatosora@gmail.com

安心して元気を取り戻せるように子どもには居場所を、ご家庭にはほっとできる情報の提供を。ご利用ください！



発起人：麗さん



さくら広場

小中学生が、日中に思い思いのことをして過ごせる居場所を松戸駅西口で運営しています。



HP ホームページ
Facebook フェイスブック

080-5454-0726
nimuratakae@gmail.com

子どもだけで気軽に行ける場所があったら。それが難しく感じるときありますよね。まずは親御さんだけでも。



代表：二村さん



マツジョ

(松戸の読み書き困難支援の情報交換のための会)

主に読み書き障害・困難(ディスレクシア等)の子供への支援についての情報交換を2か月に1回開催しています。普段はLINE オープンチャットで半匿名で情報交換しています。

yomikaki.matsujo@gmail.com

情報や経験の共有は宝です。ご自身やご家族の困り事を共有しながら、前に進むきっかけを、ぜひ一緒に。



代表：石井さん



※松戸市とその近隣で活動している一部の情報です。他にも様々な団体や活動があります。



不登校とは？

市民活動

対策サポートは？

松戸市は「共働き子育てしやすい街ランキング 2023」*で総合1位を取るなど、子育て支援の施策やサービスが充実していると言われています。さらに民間の子育て・子ども支援に関わる市民活動団体の活動が活発です。

子育て支援、という乳幼児対象がクローズアップされることが多いですが、学童期の子育て・子ども支援の活動をしている団体もたくさんあります。学童期のトピックスとしてよく取り上げられ、また今年度も最新の調査が出てニュースにもなった「不登校」。子育て・子ども支援の現場と「不登校」は無関係ではられません。

そこで、今回の特集は松戸市内で不登校に関わる団体の紹介と共に、「不登校とは？」「今の不登校支援や対策、サポートはどんな感じなの？」を皆さんにお伝えし、地域で不登校や子どもの育ちに対して私たちが何ができるか考えていければ、と思います。

*日本経済新聞社と『日経 Xwoman(クロスウーマン)』(発行：日経BP)「自治体の子育て支援制度に関する調査」

不登校の現状

※1「令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要」文部科学省
※2「令和6年度 松戸の教育」松戸市教育委員会
※3 文部科学省は、不登校の定義を「何らかの心理的・情緒的・身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」としています。
※4 「不登校に関する子どもと保護者向けの実態調査」認定NPO法人カタリバ(2023)
※5 「令和2年度不登校児童生徒の実態調査」文部科学省、「不登校に関する子どもと保護者向けの実態調査」認定NPO法人カタリバ(2023)など

松戸市内の小中学校
不登校児童生徒数
1000人

全国の
不登校傾向の子ども
5人に1人

全国の小中学校における長期欠席児童生徒数は、近年急激に増え、34万人を超えています。*1
松戸市の状況も同様で、市内の小中学校の不登校児童生徒数は1000人を超えています。*2
これらの人数は文部科学省の基準*3に則ったもので、ここに含まれない「教室外登校」や「本当は登校したくないけれどどうにか登校している子ども」など「不登校傾向の子ども」を含めると4倍、5人に1人になるという調査結果もあります。*4
また、長期欠席、不登校の原因は多様で複合的なことが各種調査で報告されています。*5

どんな団体？

松戸市内のゴミ拾いを通して様々な世代と交流。色々なイベントで「ごみ分別紙芝居」を上演し、分別の大切さを伝える。またイベントで「エコステーション」を設置、リサイクルセンター見学会、生ごみ堆肥化推進やリサイクル商品代行回収、環境映画自主上映会など、ごみをゼロにする活動をしている。



紙芝居で子どもも楽しくごみの分別を学ぶ



エコステーションで

循環型社会への流れを作っていくたいです。今後も他の市民団体ともコラボしながら自分の活動もやっていきたい。全ての人のごみと関わっているの、声をかけられればどんな分野でもどこにでもいきま

これから

誰かがなにかしら落ちているごみに関わっています。だから、他人事ではない。例えば坂川で拾ったごみはポイ捨てではなく、集積所から落ちるごみが多いです。拾う時は「誰だよ。マスク落としてー」と思うが、自身もマスクを気付かないうちに落とした事がある。過去過失で自分が落としたごみの量と拾う量をイーブンにしないでという使命感があります。

街が綺麗になると、人の心が荒まなくなると言われています。ごみが落ちているのに平気になって心が汚れていっている状態ではなく、綺麗なのが当たり前前の状態にしていきたい。

なぜごみ拾いなのか？

55歳で新宿の清掃活動に参加。月8回都内各地のごみ拾い活動をしていました。ある時地元では活動をしていないことに気づき、松戸の団体に参加し始めました。地域活躍塾生となった2021年のみらいカイギにて「まつどでゼロウェイストをめざそう！」というテーマで発表後、まつどゼロウェイストを立ち上げました。

きっかけ

市民活動紹介

CHALLENGER チャレンジャー まつど ゼロウェイスト

Matsudo ZERO WASTE



Instagram
<https://www.instagram.com/matsudo.zerowaste/profilecard/>



不登校情報を集め発信している「はらっぱとそらプロジェクト@千葉松戸」代表でありライターでもある麗さんに、市内に限らない広い不登校情報をまとめて頂きました！

不登校支援や対策・サポート

フリースクール

個人や NPO 法人、ボランティア団体などが運営する民間の教育機関で、学校教育法で定められている「正式な学校（一条校）」ではありません。各校の方針や教育理念に違いがあり、費用にも差があります。子どもたちの主体性を尊重するところが多く、不登校の子が自由に過ごせる場所になっています。近年オンラインスクールも増えています。

通信制高校

学校教育法で定められた「正式な学校（一条校）」で、卒業すれば高卒資格を得られます。通信制といっても通学を交えた学校が多く、通学頻度、レポート提出頻度、提出方法、定期テストの受け方、学費などは学校によって異なり、選択肢が広いことが特徴です。近年、通信制中学校もあります。

ホームエデュケーション（ホームスクール）

家庭を拠点に学びを広げる多様な学びの手法のひとつです。主に保護者がコーディネートして、自宅はもちろん、地域や博物館、美術館、公園、里山なども活用してその子に合わせて学びを進めていきます。



ホームスクール・ホームエデュケーション総合情報サイト
※運営には、松戸市内のオルタナティブスクール「地球の家」も参画しています。

サポート校

通信制高校と連携して、卒業のためのサポートを行います。学校教育法に定められた「正式な学校（一条校）」ではなく、サポート校に入学・通学するだけでは高卒資格を得ることはできません。通信制高校の卒業率・進路決定率の低さ、交流の少なさをカバーするサポートをします。

不登校相談(松戸市教育委員会)

松戸市では多様な学びの場や支援のしくみを実施しています。教育相談では、不登校だけでなく、子どもが登校をしぶるなど不登校につながることもご相談いただけます。

松戸市教育委員会教育相談面談予約：047-366-7600



松戸市教育委員会 HP
「不登校支援について」

高校卒業程度認定試験（高卒認定/旧大検）

高校卒業程度の学力を証明する試験で、累計 8~9 科目に合格すれば、大学・専門学校や高卒者が受けられる国家資格などの受験資格が得られます。8 月の平日と 11 月の土日の年に 2 回の試験が全都道府県であり、必要累計合格科目数に達するまで、何度でも受験することができます。

特に不登校生を対象としない、地域で過ごせる様々な居場所

児童館、こども館、青少年会館、中高生の居場所など

子どもがひとりでもふらりと訪れて過ごすことのできる居場所です。



松戸市の児童館・こども館・中高生の居場所



松戸青少年会館

子ども食堂

子どもの自主性・主体性を大切に、理解あるスタッフで活動しているため、不登校生も行きやすい場となっています。



まつど子ども食堂の会

冒険あそび場やスレーパーク

子どもの自主性や主体性を大切に、理解あるスタッフで活動しているため、不登校生も自由にのびのびと遊びやすい場になっています。



【参考】冒険遊び場まつどあそぼうよ



佐藤さんが松戸で初めて参加したメイク松戸ビューティフル

2024年7月1日～12月15日
（届出順・敬称略）

活動していて楽しいことは、人と繋がるところです。

個性溢れる方々との交流は自分にはないものを知ることができるから。



代表：佐藤誠さん

サポセン 新規届出団体 を紹介します！

2024年7月1日～
12月15日
（届出順・敬称略）



- 松戸市子ども会育成会連絡協議会 ■東平賀北町会
- 明第2東 みんなの秋祭り実行委員会 ■ペア・ユニオン ■惣ノ風連
- 松戸山の会 峠 ■社会福祉法人ピスティスの会第二平和保育園
- ENGLISH TONE ■よろこびじょん ■みなみの親子会
- あそびパーク やきりの ■はつらつクラブ矢切支部 ■浅間台麻雀クラブ
- あつまれ やぎりっこの森 ■矢切地区居場所づくり実行委員会
- 一般社団法人ルームイチ ■大人の絵本の読みきかせ
- たのしみデザイン ■つながるまなび場 実行委員会 ■松戸ポッチャ協会

NEW!

いかがでしたか？



不登校問題に馴染みのある方、あまりない方、様々いらっしゃるかと思いますが、「そうだったんだ！知らなかった」「サポートの仕方も色々あるのだな」と新しい発見もあったかも知れません

子どもの育ちに地域の色々なリソースが関わり、それぞれの強みを活かして共に育てていければ、学齢期の子どもたちにとっても住み良い街になるのではないのでしょうか。地域の様々な人が、その一員として少しずつでも考え関わっていただけるといいですね。

NPO 法人さんま(さんま食堂)

Saruma Syokudou



どんな団体?

「遊び」と「食」をきっかけにした地域の居場所であり、毎週火・木曜日は、子どもの居場所になっています。赤ちゃんから利用することができ、遊び場やご飯・食材の提供、お裾分けを行っています。毎月第2月曜日には子育て支援としてお弁当を配布しています(定員あり)。

今回の活動の中で、さんま食堂を訪れた人たちが皆笑顔で帰って行った姿がとても印象に残っています。お弁当を渡す際には、世間話をしたり、近況を聞いたり、スタッフと利用者の間だけでなく、ボランティア間でもコミュニケーションをたくさんとって、幅広い年代の方と楽しく交流することができました。このような居心地の良さが、それぞれの人たちの「居場所」へと繋がっているのだと感じました。

安蒜さん
この日はお弁当を親子に配る日で、他のボランティアの方々も分担しながら約70人分のお弁当を作りました。私は大学の部活でマネージャーをしていて、普段から約50人分の選手のご飯を作っているのですが、その経験を活かすことができたのではないかと思います。

田村さん
調理中は皆、テキパキと作業をしていましたが、ごはんが炊けるのを待っている間やお弁当を受け取りに来る親御さんを待っている間はゆったりとした空間となり、さまざまな雑談が飛び交っていました。その中でも特に興味深かったのは、保育士を目指しているLet's体験!!の学生が、保育士として働いていていた経験のある参加者の方2人から体験談を聞きながら、自身の進路について考えていたことです。地域の人はそれぞれ異なる経験をしており、その経験は私たち若い世代にとって貴重な財産となります。地域の人の交流の醍醐味を、その場において味わうことができました。



松戸さん
Let's体験!!の参加者も会員の方と一緒に里山林を整備するために木や竹を何本か伐採しました。会員の方から普段は使わないノコギリの使い方や切り方のコツを教えてもらいながら伐採していきまし。この活動は森林動植物の保全活動を主にしており、実際に手入れされている部分とそうでない部分を見比べると林内は明るくなり、綺麗な状態になっているのが分かりました。手入れすることで市内に残る数少ない森林が守られています。手入れには人手と道具が必要です。会員の高齢化やノコギリや剪定鋏といった活動に必要な道具の購入費用などの課題があることも分かりました。

松戸さん
また、環境保全という活動だけでなく、この活動を通して会員の方の交流の場としても機能していることが分かりました。普段の生活では体験することのないような樹木の伐採という体験を通して、環境保全活動の大切さを学ぶことができる貴重な機会でした。



夏のボランティア体験講座 Let's体験!! 2024

大学生インターンの活動レポートを中心に紹介!

サポセンの 事業報告

Saposen
Business Report

Let's 体験!! 2024 概要 ●参加者数...206名 ●受入れプログラム数...51プログラム

受入れ団体説明会
4月20日(土)

申込・面談期間
6月15日(土)~
7月20日(土)

オリエンテーション
& マッチングの会
7月21日(日)

活動期間
7月22日(月)~
8月31日(土)

ふりがえりの会
9月1日(日)



チラシデザインは地元・松戸で活躍する「みどり図案室」さんに柔らかく仕上げて頂きました。



今年のオリエンテーションでは「学生団体おりがみ」の大学生の皆さんにワークショップを企画からお願いしました。参加する予定のボランティアで何がしたいかをお互いに話しあったり、「もっとこうしたら松戸が良くなる!」というアイデアをみんなで考えました。

夏の体験を共有する「絵日記」づくりと、インターンの松戸さんが企画から考えたワークショップを実施しました。



どのような夏の体験が松戸市で広がっていたのか、大学生インターン(松戸さん・安蒜さん・田村さん)の活動レポートを紹介します。

松戸里やま応援団 樹人の会「野うさぎの森」

Nousagino Mori

どんな団体?

紙敷にある「野うさぎの森」で森の保全活動を行っています。この団体は松戸市が主催する「里やまボランティア入門講座」の受講生で構成され、現在は25名が第1、3水曜日と第4日曜日に活動しています。



松戸さん

Let's体験!!の参加者も会員の方と一緒に里山林を整備するために木や竹を何本か伐採しました。会員の方から普段は使わないノコギリの使い方や切り方のコツを教えてもらいながら伐採していきまし。この活動は森林動植物の保全活動を主にしており、実際に手入れされている部分とそうでない部分を見比べると林内は明るくなり、綺麗な状態になっているのが分かりました。手入れすることで市内に残る数少ない森林が守られています。手入れには人手と道具が必要です。会員の高齢化やノコギリや剪定鋏といった活動に必要な道具の購入費用などの課題があることも分かりました。



『ワーク・イン・ライフ・ライフ』 オススメします

まつど市民活動
サポートセンター
コーディネーター
石川 紗樹

ワーク・イン・ライフという言葉をご存知でしょうか？

その人の人生を歩みながら仕事ができる。人生と仕事の垣根があまりない。

それを「ワーク・イン・ライフ」というそうです。わたしはそれを「NPO的だなあ」と感じています。

サポセンで働く前、わたしは隣の市川市で子どもや親子向けのNPO活動を、自らのライフワークとして取り組んでいました。ですがほぼボランティアの活動だったので、ライスワーク(食べるため稼ぐために働く仕事)として飲食店のパート勤務もしていました。そうしている内に、「ライフワークで稼げればもっと活動に時間も力もかけられるし、質も上げることができるの。」と思います。

近年、ようやく事業型のNPO法人も増えその存在も増えています。数としてはまだまだ多くはないですが、有償職員が何名も在籍する団体もあります。

そしてわたしも、現在はNPO法人が指定管理者として運営しているサポセンで有償で働いています。さらに、不登校ひきこもり支援など自らの興味の赴くままに参加して、自由に働き、対価をもらったりボランティアだったたり、様々なことに携わっています。

ほぼ休日のない生活をしてはいますが、仕事と趣味の境目が分からない感覚です。「非正規雇用のトリプルワーカー」として、どれもやりがいを持って取り組み幸せに暮らせています。

長らく社会は効率や売り上げ、成果が第一で、個々のその人らしさは重要しされずに突き進んできたと思います。ですがようやく、人々がその人らしくあることが優先され始めているように感じます。そのような社会を創るのにNPOは欠かせないと、私は考えています。なぜなら、NPO法人法ができてもうじき25年、その間NPOはその人らしさやその想いを優先に仕事(活動)に取り組み、そのうえで成り立つものを成り立たせてきた歴史があるからです。

「ワーク・イン・ライフ」なNPOで働く人が増え一般企業も感化されて「誰もがその人らしい生活と仕事ができる」社会になることを、わたしは思い描いています。「ワーク・イン・ライフ」、皆さんもいかがですか？

山梨などでも仕事や活動をし、その合間に登山も楽しんでます♪



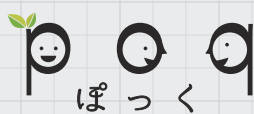
サポセンニュースレター

第36号(2024年終号)

発行日: 2024年12月15日

(※年3,4回発行)

発行元: まつど市民活動サポートセンター
(指定管理者 NPO法人まつど NPO協議会)



主な設置場所

松戸市内の図書館、市民センター、公民館等各種公共施設などに設置しています。

設置協力店

Sampo Café (八ヶ崎 7-31-5)

松戸観光案内所(本町 7-3)

やしま商店(本町 6-3)

隠居屋 IN kyo-Ya (南花島中町196)

はれの日サロン(常盤平3-11-1
西友常盤平店 5階)

いわぼんホール(岩瀬38)

紙敷あんど(紙敷1135)

さんさん カフェ(仲井町 2-6-4)

本屋 BREAD&ROSES
(常盤平 4-8-15 ウエキビル 1F)

omusubi 不動産
(総台 1-21-1 あかぎハイツ 112)

Coworking Space Flat Café & Bar
(新松戸 3-289)

昭和セレモニ-松戸・矢切・北小金儀式殿
(千駄堀620-1・栗山19-4・殿平賀75-2)

松戸スタートアップオフィス
(松戸 1307-1 松戸ビル 13F)

まちかどアトリエ Neiro
(松戸 1117 ピラ松濤 2F C号室)

まつど市民活動 サポートセンター

〒271-0094 松戸市上矢切 299-1(総合福祉会館内)

TEL: 047-365-5522 FAX: 047-365-5636

E-mail: hai_saposen@matsudo-sc.com

URL: http://www.matsudo-sc.com/

facebook: https://www.facebook.com/matsudo.sc

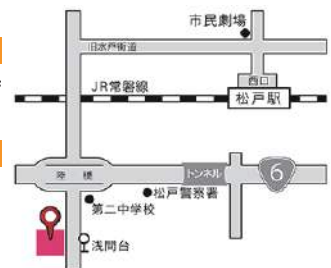
開館時間

月～土: 9時～21時

日: 9時～17時

休館日

第1・第3水曜、
年末年始
(12/29～1/3)



「ぽっく」の配架にご協力いただけるお店・施設を募集します！

ニュースレター「ぽっく」を、お店や施設に配架していただけますか？ご協力いただいたお店・施設は、この欄で名称・所在地等をご紹介します。もちろん、無料でお届けし、部数もご要望に応じます。詳しくは、まつど市民活動サポートセンターまで、お電話・メール等でお気軽にお問合せください。



サポセンの冬のイルミネーションも夜空もピカピカです。(ひ)